



KFC News

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2022.11.17

No. 171

法人本部 〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502
TEL: 078-612-2402 FAX: 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net
デイサービスセンター ハナの会 TEL/FAX: 078-612-2408
グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ TEL: 078-798-5475・4 FAX: 078-798-5476
ハナ介護サービス TEL: (居宅) 078-646-8671 (訪問) 078-646-8670 FAX: 078-612-3052
ふたば国際プラザ TEL: 078-747-0280 FAX: 078-747-0290

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

KOBE ランタン縁日 2022 を行いました

10月21日(金)、22日(土)にKOBE ランタン縁日2022を行い、大小800個のランタンで長田の街を彩りました。今年はふたば学舎に加え大正筋商店街の橋げた2つや協力テナント前、新長田大橋地下道、合同庁舎1階の神戸生活創造センターなど、多くの場所でランタンを展示し、多くの方々のご協力でこれまでになく広範囲に事業を実施でき、ふたば学舎の親子縁日だけでも2日間で2,300名の来場者がありました。

ランタンの数は毎年増やしていて、去年は約550個でしたが新たに250個ランタンを増やしました。日本語の学習者や支援者、地域の子どもたちなど様々な人々に絵付けを行って頂き、今年もオリジナリティあふれるランタンがたくさんできました。今年はランタンをできるだけ長い期間楽しんで頂けるよう、縁日の2日間だけでなく、1週間前から展示を開始して街行く人々の注目を集めました。実際に絵付けをした人々が、自分が絵を描いたランタンを探す姿もたくさん見られました。

また、今年はウクライナ避難民向け日本語教室でもランタンへの絵付けの機会を作り、芸術活動が好きな避難民の方々がとても楽しそうに絵付けをされていました。一部の方々はとてもランタンの絵付けが気に入り、その後神戸国際コミュニティセンター(KICC)で別途実施した絵付けイベントにも参加されていました。

ランタンの数だけでなく、縁日の催し物自体もコンテンツを増やしました。親子縁日ではスーパーボールすくい、割りばし鉄砲、世界の遊び、千本引きなどふたば学舎のノウハウやネットワークを活かして多くの方々の協力を得て子どもたちが楽しめるゲームを多数用意しました。またステージ企画では昨年引き続きチンドンの演奏やマジックを披露頂いた他、モンゴル語の母語教室

の子どもたちによる演奏やフラダンス、地域のアイドルグループのパフォーマンスなど、多彩な内容になりました。また神戸国際コミュニティセンター(KICC)でもKICC縁日を企画して頂いたり、大正筋商店街の店舗で金魚すくいを出して頂いたり、そしてそれらに満遍なく人が行くように会場マップとスタンプラリーを準備したりと工夫を行い、功を奏しました。

そして、ここ数年コロナでできていなかった飲食屋台にも取り組むことができました。地域の店舗や団体・個人の協力を得て韓国、ベトナム、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、わたがしといった多様性ある飲食店舗をふたば学舎前と神戸国際コミュニティセンター(KICC)前で展開しました。KICC前ではウクライナの人々によるピロシキの販売を行い、ウクライナ避難民支援で通訳をお願いしている方の協力を得て、結果9名の避難民の方々がピロシキづくりや販売に参加しました。屋台前ではウクライナの国旗をもって楽しそうに販促する姿も見られました。

今回のランタン縁日の実施にあたっては多くの費用が必要であり、一部を民間の助成金で賄ったものの、収支を合わせることはできていません。一方で寄付(ランタンサポーター)を募り、18団体・個人から93,000円のご協力を頂きました。また当日も募金箱を設置し来場者に7,928円のご協力を頂きました。毎年規模を大きくして地域の一大事業として確立していくために、神戸市としての予算化を目指し昨年からの神戸市の担当部局と協議を続けているところです。今後も外国人の社会参加を後押しし、地域の縁をつくる事業を引き続き育てていきます。

(大石 貴之)

ウクライナ避難民支援の現状

KFCでは、神戸市に來られたウクライナ避難民支援に係る相談・支援コーディネイト業務を神戸市の外郭団体である神戸国際コミュニティセンター(KICC)からの委託事業として行っています。神戸はウクライナの方々と縁があるようで、兵庫県に來られているウクライナ避難民の大多数が神戸市に集中しており、区役所での住民登録、国民健康保険などの手続き関係から学校、就労、病院同行、物資支援の手配などその支援内容は多岐に渡ります。それらに対応するために支援に携わるスタッフの数も増やし、体制強化を進めてきました。

避難民の方々はいつ帰国ができるか見通せない中、就労や教育をどのように進めるかを決めづらいところがあったり、体調を崩したりと難しい状況が続いています。一方で日本語学習に継続して取り組み、スタッフにできるだけ日本語で話しかけようとされたり、交流活動に楽しく参加されたりする姿も見られます。

ウクライナ避難民支援が一種の社会トレンドとなっていて様々な団体・個人が玉石混交の支援を打ち出していることによる混乱や、事情を詳しく知らない中での外部からの支援内容に対する批判や意見、或いはメディアからの取材対応など、支援を担うスタッフには相当ストレスがかかっているという側面もあります。

その中で、KFCとして今一度目指すべきものと支援方針をメンバーで共有し、自信をもって事業を進められるようにしたいと、改めて考えています。やはり自立や当事者性などがキーワードとして挙がってきますが、第三国定住難民支援やそれ以前の経験も踏まえて、今やっていることを客観視しながらKFCらしい支援を行っていきたいです。
(大石 貴之)

◆ウクライナ避難民の子どもが置かれた状況

ウクライナから避難されてきた人々のうち、早い方で来神して半年が経過しました。生活基盤を整える段階から、就労・就学へと徐々にフェーズが移行しています。

学校の受け入れ態勢の調整を経て、就学年齢の子どもたちのほとんどはいずれかの学校への通学を開始しました。神戸では公立学校に通う子どもは約1割で、インターナショナルスクールがウクライナの子どもをほとんどを受け入れています。

1.子どもたちの状況

ウクライナから日本へという大きな環境変化とストレスの中で、前向きに日々を暮らす子がいいます。例えば、英語を活用する子どもたちはインターナショナルスクールで友人をつくり、興味のある学問を見つけて取り組んでいます。そのことを、ある子どもは「最高の上をいく楽しさ!」と表現してくれました。苦労の方が多いのではないかと予想に反する反応に驚く一方、学習への抵抗感やウクライナへの帰国希望を持つ子どもは苦しい表情を見せています。

日本の学校へ通学する(していた)子も、先生と保護者や保証人との綿密な連絡や、好きな活動との出会いにより楽しく通う子もいれば、何かしらの不都合を抱える子もいます。

ほとんどの子どもたちが日本での学校生活のほかに、ウクライナの学校のオンライン授業も受けており、ダブルスクーリングによる疲労感が強い状況です。

2.子ども支援の開始

子どもによって現状や将来の希望は異なりますが、どの子どもも戦争によって権利がはく奪されず不利を抱えないよう、子ども支援を進めていくこととしました。子どもたちと保護者のニーズを知るために、各家庭への聞き取りを進めています。

聞き取りの結果、勉学には十分取り組んでいるため、息抜きのためにも興味のあることに取り組みたいというニーズが明らかになりました。工作やお絵描き、天体観測、スケートなど、一見すれば「趣味」の域をでないものかもしれませんが、子どもにとっては忙しい平日の合間を縫っての休息の訴えです。早急に実現できる活動については、ランタンの絵付け会、スケート&科学館にここの会、工作教室などを企画・実施しています。

保護者同士が繋がりにくいこと、インターナショナルスクールへの通学継続の可否、日本の高校や大学への進学方法、帰国可能性などの将来の不透明さと不安に、いかに対処できるかが今後の課題です。

3.今後の計画

笹川平和財団と合同で、学習状況調査を行います。対象は高校生年齢の子どもたちです。現時点での子どもたちの進路意識や、教育システム自体を調査する予定です。相互を見比べることで、今後必要な環境と不足しているサポートや制度を明らかにしたいと考えています。また、子どもの関心に応じた活動企画も継続してい

きます。

先が見えない中で日々に向き合っている子どもたちが、安心して生活できるという当たり前の権利が守られるよう、KFCから動きを起こしていきます。(櫻木 晴日)

日本語プロジェクト

◆王子動物園 遠足

9月29日、日本語クラスで神戸市立王子動物園に行きました。コロナが少し収まってきたので何処か遠足に行きたいですね、という話から、近場で気軽に行くことができる王子動物園に決まりました。子どもの小さい頃はよく行ったものですが久しぶりでした。企画を提案してくれたリーさんも、学校の遠足で子どもが行っていて話は聞いているのですが行く機会がなかった、と楽しみにしていました。戻り梅雨のような蒸し暑い曇天が続いていて天候が心配でしたが、当日は好天。青空のもと、木陰に入ると時々吹いてくる涼しい風にホッとするような日でした。参加者は14人、ベビーカーのお子さん連れの方もいらっしゃって、各自、入場券を買うところからスタートです。王子動物園のメインはジャイアントパンダとコアラですが、残念ながらパンダは体調管理のため一般観覧が中止でした。動物舎のそれぞれの前に掲示されている説明を読んだり、手作りの止まり木の間で上手に眠っているコアラや大きな体を長い腕を使い振り子のように動かして木々を渡るオランウータンに見とれたりしながら、広い園内をゆっくり見て回りました。現地集合、園内も自由行動でしたが、屋外の方が緊張感も少なく、日頃話すことのない人たちと交流することもできて良い半日になりました。最後にゾウの食事風景を見ながら、私たち(木曜クラス)も一服。ベンチに座って「またどこか行きたいね」「ここは桜の木が多くてお花見もいいよね」などとおしゃべりをしてお昼過ぎに解散しました。

(谷先 晴代)

9月29日木曜日、動物園に行きました。いいお天気でした。動物園はとても広くて綺麗で大きな木がたくさんあるので涼しいです。珍しい動物や野生動物がたくさんいます。アジアゾウ、オランウータン、タンチョウ、いるか、アシカ、フクロウ、つる、、、等です。動物園には小学生がたくさん来ていて賑やかでした。とても楽しかったです。象の食事を見ました。すばらしかったです。次は他の所に行きたいです。

(グエン ティ リン)

◆チャクチャクはヤバイ！

いつもの土曜日はKFCで親子で学習できる場として日本語の学習と教科学習のサポートが行われていますが、10月1日はふたば学舎のキッチンに集まりました。タジキスタン出身の方に『チャクチャク』というお菓子の作り方を教えていただき、日本料理の代表『たこ焼き』を紹介する世界規模の調理実習です。

チャクチャクの材料は小麦粉、卵、塩、砂糖。混ぜて、練って、薄く延ばして、小さく切り分けたら油で揚げます。黄金の生地がぷっくりとおおいそうに揚がったら、練乳を気前よく投入！しっかりと絡めて黒ゴマをトッピングすれば出来上がりです。甘い香り、ツヤツヤに染みた練乳、サクサクの歯ざわり。頭の隅を高カロリーという文字が掠めました。しかし、このサクサク、ジュワーに手が止まらないのです。恐るべしチャクチャク。世界には美味しすぎて危険な食べ物があるものです。

一方、たこ焼きは10月末に東京に引っ越されるロシア人保護者からの希望で作ることになりましたが、子どもたちの腕前に驚かされました。皆が揃って几帳面な性格なようで、そーっと注いだ生地にきっちり均等に具材を配分、竹串を使って慎重に裏返し、完璧なボール型に仕上げていきます。いつもは「もっと丁寧に漢字書いてー！」と言っている大人の方はというと、ダーツと入れて、ガガッと勢いに任せて焼くので、出来あがった形の違いは一目瞭然でした。しかし、ソースを塗って青のりをふりかければなんとかなるところがたこ焼きの良いところ。美味しかったです。(よね?) それから、みんな、これからはたこ焼き作業と同じくらい丁寧に漢字を書こうね。

お食事のあとは、タジキスタン共和国について紹介をしていただきました。タジキスタンの風景や四季(夏は暑いけれど乾燥していて日本より過ごしやすそう)、野菜がとっても美味しいこと、3月に行われるお正月のお祭りなど、美しい写真とお話はとても興味深いもので、質問も相次ぎました。特に「誰でも歓迎します」というラマダン明けの豪華なお料理の説明には皆前のめりになっていました。ちなみに、シンカバブは男の料理的なものだというのを初めて知りました。これは日本でいうところの

鍋奉行でしょうか。

学校行事と重なったために参加できなかった子がいたことが残念でしたが、お料理を通して皆さんとお話することができてとても楽しく、いつもとは違う子どもたちの姿も見ることができました。大きい子は小さい子たちを気遣い、率先して洗い物もしてくれました。また、料理を通じた交流ができると良いなと思います。(上田 佳香)

◆看護学生を迎えて

まだまだ続いているコロナ禍でも、明るく笑顔の素敵な国際看護学生さんが実習にこられました。平均年齢がググッと下がり、久しぶりに利用者さんの顔もまるで孫が遊びに来たのかのような表情です。

学生は1年生と4年生が実習目標に基づき、各々がバイタル測定や集団体操にも参加してもらい、高齢者の心身の変化や傾聴する大切さも学べたと思います。韓国やベトナムの利用者さんに積極的に声をかけられ、トランプやドミノゲームに参加されました。そして、実習最終日にはウサギとカメのカーリングを作成してくださり、スタッフも含め楽しいレクリエーションの時間を過ごしました。

看護学生に限らず現場で実習をする事が困難な中、やはり現場でしか学べない事は沢山あります。

今回、実習最終日に学生さんは泣いていました。私も泣いてしまいました。嬉しかったのと、終わるのが悲しいと言われていました。これが、実習なんだなと。

(中野 一恵)

◆グループホームハナ設立 10周年を迎えて

今から10年前の7月1日にグループホームハナはオープンしました。開所当初は介護未経験の職員や国籍の違うスタッフで戸惑いの毎日を過ごし、何度か円形脱毛症になった事を昨日の事のように思います。

地域密着型施設であるグループホームで、どうすれば地域住人の一人としての生活が営めるのかを考え、近隣の小学校に電話をかけて「運動会や音楽会に参加させて頂けませんか」とお願いすると快く応じて下さり「お席を設けてお待ちしております」とお返事を頂き何度か小学生の合唱や演奏を聴かせて頂きました。また、近くの放課後等デイサービスのちびっ子たちもハロウィンの仮装を披露して頂いたり、クリスマス会に参加して頂いたりと交流の場が広がりました。ちびっ子たちは全く臆することなくご利用者様の膝の上に座り一緒に楽しいひと時を過ごした事もありました。敬老会や地域のイベントへの参加も少しずつ出来てきたのですが、コロナ禍の状況で一切交流することもなくなってしまい振り出しに戻ってしまった感がありますが、コロナが落ち着いたなら地域住民の一員としてまた参加させて頂きたいと願っています。

さて、10周年を迎えた当日には、当日休みのスタッフも買い出しに出かけたり、調理の下ごしらえをしたりと全スタッフが協力しあって手作りの食事の提供が出来ました。いろんな国にルーツを持つスタッフなので、日本食あり、韓国料理やベトナム料理、中国料理と重箱の中身も多国籍ですごくハナらしいなと思います。金理事長からはご利用者様に対して一人ずつプレゼントを頂き全員でバースディソング(♪センイル チュッカ ハンミダ♪)を歌い楽しいひと時を過ごしました。

地域に根差した施設を目指してスタッフ一同邁進したいと存じますので、今後ともご支援を下さいますようよろしくお願い致します。(星野 敬子)

今後の予定

■就学前の子どものプレスクール事業

1月7日～3月25日(土) 10:30～12:00(全12回)

■ふたば国際プラザ

○相互理解講座 ～世界の学校、日本の学校

11月19日(土) 13:00～15:00

○第35回 ヒューマンシネマ上映会

11月25日(金) 18:00～20:20

「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナ

天地黎明(黄飛鴻)」

○共生社会に向けたボランティア養成講座

10月2日～11月20日(日) 13:30～15:30(全8回)